

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794200127		
法人名	株式会社美咲		
事業所名	グループホームみさき花園		
所在地	大阪府茨木市花園2丁目24番17号		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人の「生活」を第一に考え、ご本人が自ら進んで行うことは、危険でない限り制止せずに見守り・声掛け程度にとどめ、出来る限り自由に過ごしていただいています。
また、静かな住宅地の中で公園や遊歩道に面した恵まれた立地条件を生かし、散歩などの外出機会を多く設けていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、大阪市内に法人母体を置く株式会社美咲の2番目のグループホームとして昨年2月に開設された。茨木市の中心から離れた北東部の小川と遊歩道、公園に囲まれた閑静な住宅地に新しく建てられたホームである。平屋の、大きなガラス窓で採光が良く、広々としたリビング兼食堂はゆったりくつろげる共有空間となっている。職員は法人の理念である利用者独自の「生活」を第一に考え、一律に縛る事無くできるだけ自由に一人ひとりの「生活」が続けられるように寄り添い、温かく見守っている。管理者と経験20年余りのベテラン職員が新人職員に対して懇切丁寧・真剣に指導を積み重ね、ホーム全体でその人らしい安心・安全な「生活」を支える協力体制が出来ていて、本人および家族の安心と満足を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の「生活」を大切にすることを理念として掲げており、職員ミーティングの際には、まず最初に理念を再確認することから始めている	利用者のこれまでの「生活」を大事に、不安なく安心して続けていけるよう寄り添い支援していくという法人の統一理念を掲げている。毎月の職員ミーティングで必ず確認し、日常のケアに活かすよう努めている。	折角の閑静な住宅地に囲まれ恵まれた環境を活かして、地域と密接に関わっていくことを加味した独自の理念の策定が望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては自治会の中で一定の位置づけを得ているが、利用者と地域とのつながりは限定的であり、まだ薄い	自治会の一つの構成班として位置付けられている。毎月の会報に広告を兼ねてホームの案内が掲載されている。夏祭り、運動会や敬老会等の地域行事に利用者、職員とも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際や電話での質問等には答えているが、地域の人々一般に向けて広げているところまでには至っていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議における話し合いは、報告や確認などの情報交換の域を出ておらず、サービス向上につながるような踏み込んだ意見交換が出来ていない	昨年2月開設したばかりだが7月以降隔月確実に開催している。地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、家族代表、入居者代表、事業所代表の参加で双方向の意見交換が出来るようになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員に毎回出席して頂いており、報告や情報交換を行っている	市介護保険課に随時出向き、業務報告のほか介護認定や生活保護の具体的な相談等をして、アドバイスを得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアはオートロックになっていて通常は施錠されているものの、「禁止の対象となる具体的な行為」に示されているような身体拘束は行っていない	身体拘束をしない為の研修を実施し、職員全員が正しく理解しその重要性を共有している。玄関ドアは通常オートロックで、施錠されている。	手始めに、見守りが充分できる時間帯に限りオートロックを開放するよう職員皆と話し合い、徐々に回数・時間を増やすようチャレンジすることを期待する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	明らかな虐待については周知されているが、言葉遣い等の細かい部分では見過ごされていることもある			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は日常生活支援事業に申し込んでいた利用者もいたが、現在は対象となる方がいない状態である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取って、書面の読み合わせ・説明・質問への返答を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは、お電話や面会に来られた時などにお話を伺っている また介護相談員を通して入居者様のお気持ちをお聞きすることもある	一部の家族を除いて、月に2～3回訪問があるので都度利用者の近況報告するとともに利用者、家族の意見、要望を聞いている。介護相談員からも入居者の気持ちを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際や日常の業務の中でも意見の交換を行い、取り入れられるものについては取り入れている	日常業務中の余裕のある時に、個別に話しかけたり、職員ミーティングでは自由に忌憚なく意見や提案できる雰囲気作りをしている。自己評価を基に個人面談をすることを考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務割当(シフト組み)に於いては、個々の事情を十分に与して最大限に希望を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験のある職員によるOJTを常に行っている また、開設1年の事業所なのでまだ対象者はいないが、将来的には認知症介護実践研修等の受講者を増やしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業全体の管理者会議や、法人内の事業所間で研修を受け入れるなどして交流を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、まずホームに馴染んでいただくこと、そのための信頼関係づくりを大切に接している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居段階でのご家族の心配ごとやご希望はよく聞くようにし、出来るだけ取り入れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に於いては、他のサービスの利用も視野に入れた検討を行い、必要であれば導入するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が自主的に行うことは危険でない限り制しないようにし、洗濯物の取り込みや食器洗い等進んでして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には電話などで状況をお知らせし、職員の説得に応じてもらえないときなどには、ご家族からお話していただくこともある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の他に昔の知人が訪ねてこられたり、何人かの方は以前より通っていた馴染みの美容院へ行っておられる	昔の知人が訪ねてくることもある。以前住んでいた場所を訪ねたり、美容院へ行ったりしている。20～30分かけて近くのスーパーマーケット「バリュー」に買い物によく行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係ではトラブルが発生することもあるので、その距離は物理的・精神的共に常に調整するように心掛けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	たまにはあるが会いに行ったり、ホームに届いた郵便物を持って行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望は出来る限り組み入れるようにしているが、表面的な望みはともかく、本質的な望みまでは把握しきれていない	入所時、フェイスシートに聞き取った各人の生活歴や趣味・特技等を大事に、その延長線上で不安なく安心して過せるよう、本人および家族の希望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や、入居後もご本人との日常会話やご家族が面会に来られた時などに話を伺ったりして、把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録を付け、その方の生活パターンや現在の状態・能力について把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員とそれぞれ個別に話をするはあるが、それらを総合してプランに反映させるまでには至っていない	介護記録や毎月実施するモニタリング等をもとに本人家族、担当者、看護師の他関係職員の意見を取り入れ、本人の状態に即した計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の記録はいつでも読める状態になっており、日々の変化や細かな変更などは、申し送り表や連絡帳でも伝え合い情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来ご家族にさせていただくことも、ご家族が動けないときには代行をしたり、ご本人の状況に応じて予定を変更したりと、柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一部の地域資源を利用するにとどまり、より豊かな暮らしにつながる資源の掘り起こしにまでは至っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は毎週往診に来ているホームとの提携医になっているが、希望により以前のからの馴染みの医療機関を受診している方もいらっしゃる	協力医療機関の内科医、歯科医が毎週往診に来て、適切な医療の支援をしている。また状況に応じて本人、家族の希望するこれまでのかかりつけ医で受診できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時の連絡帳が用意しており、医師等に伝えたいことがあれば、いつでも記入できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も週に一度は面会に行くようにし、本人の状況と共に、退院に向けての情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、常時医療ケアを必要とする状態になった場合にはホームでは対応できないことを説明している そうでなければ、ご希望によりターミナルの支援も行っていく	事業所の指針として、入所時に「対応できる事、出来ない事」等対応可能な範囲を家族に説明し、同意を得ている。医療の常態化がなければ可能な限り、看取りまでの支援を考えている。	現時点では利用者の介護度が比較的に軽く、重度化や終末期対応について具体的な対策までには至っていない。今後は終末期対応について話し合い、状況変化を文書化して、家族と職員が情報を共有していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の8割以上が救命講習を受講済みであり、上級講習を受けている者も多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行う。 また、地域の自主防災会に組み込まれており、地区の訓練への参加や、非常時には相互に協力する体制になっている。	ホーム内はスプリンクラーを設置し、地域の自主防災会に入って訓練に参加している。消火、連絡、避難の内容で年2回の自主訓練をしている。職員の8割が緊急時に備えて、救命救急講習を受講している。	いざという時に備えて、事業所だけの訓練でなく消防署、地域消防団、近隣住民の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練の取り組みが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心掛けてはいるものの至らぬところも多く、細かなところで知らず知らずのうちに尊厳を傷つけていることがある	職員が利用者に接する時の態度や言葉かけ等は穏やかで優しい。気になる言葉かけをしている時は職員間で注意し合っている。個人情報の取扱いは、鍵のかかる書庫に保管し、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何にしますか？どちらがいいですか？等のお声掛けなどを通して、少しでも自己決定の場が持てるように心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事なども、時間だからと無理強いせず、起きたい時に起き、食べたい時に食べて頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気付いた時点でお声掛けはしているものの、基本的にはご本人まかせになってしまっているところがある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえや下膳・食器洗いなど、その人にできる範囲でのことはしていただいている また食事は、職員も入居者様と一緒に同じものを食べるようにしている	食材と献立は外注サービスを利用し調理している。利用者と職員は同じ食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で一緒に食事をしている。利用者の個々の生活能力を活かしながら配膳、下膳、食器洗いを手伝って貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は記録を付け、少ない方には個別に別のものを用意したり、おかゆやトロミなどでの対応もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや介助の他にも、毎週の訪問歯科による口腔ケアも行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で排泄パターンを把握して、時間を見ての声掛けやトイレ誘導、ポータブルトイレの利用など、失敗を減らすための工夫をしている。	毎日の排泄状況が詳しく記入された健康管理表で職員は個々の排泄パターンを把握しており、もよおした時の気配を的確に察知しトイレに誘導して、本人の自尊心を損なわないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じ、腹部のマッサージやホットパックなど個別に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には平日の午後が入浴時間になっているが、曜日や時間帯までは決まっておらず、入りたい時に入っている	入浴は原則週2回であるが、本人のその時々希望を大切にして、対応している。浴室は2方向介助の出来る浴槽で、ゆったりと楽しめる広さがある。入浴拒否者には、気分転換を兼ねて外湯へ誘うなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室への出入りは終日自由なので、ご自分のペースで午睡を取られている 夜間もご本人の状況によっては、遅くまでリビングで過ごしていただいていることもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべてを理解しているわけではないが、薬の説明書は個人別にファイルされており、いつでもすぐに調べられるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活においては、一人ひとりのやりたいこと・出来ることを、その人のできる範囲でやっている。 また、散歩・カラオケ・塗り絵などのレクを個別に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、可能な限り希望には応えるようにしている。 また、銭湯などへも個別のレクリエーションとして出掛けている。	天気の良い日は、利用者の体調を見ながらホームの周辺の散歩やスーパーマーケットへ買い物に行っている。利用者の誕生日に本人の希望を聞き、普段行けない外食や買い物にバスで出かけるなど、楽しい気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は特に制限はしておらず、ご希望により買物に行き、ご自分の好みのものを買っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の状況やお相手のご都合等を考慮して、必要に応じ電話を使っていたいている。 お手紙については希望される方がいらっしゃらないが、届いた場合はご本人にお渡ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓は北向きで、明るいが暑さ・眩しさはなく、窓からの景色は四季の移ろいがよくわかる。	廊下、リビング、台所の共用空間は明るくゆったりした広さで、リビングから眺める外の風景は目に優しい季節感が感じ取れる。2方向介助できる浴室やトイレも利用者の満足を高めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外はリビングの席は自由席になっており、好きな場所で過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内については自由に使っていたいている。 物を置くのがお嫌いな方には、私物をホームで預かっているケースもある。	各居室は、採光が良く明るい。これまでの馴染みのタンス、ドレッサー、テレビ、家族写真などが持ち込まれて、これまでの延長線上で居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見渡しやすい単純な間取りに加え、トイレの表示を低い位置に移すなどして分かりやすいように工夫している		